

2025/09/22

⑨Candi Pawon

人文社会科学部 2 年生

1. 概要

パウオン寺院はヒンズー教の寺院で、中央ジャワ州ボロブドゥール小地区マゲラン摂政区のボロブドゥール地区ワヌレジョグジョ村に位置している。この寺院は1991年にボロブドゥール寺院遺跡群としてユネスコ（UNESCO、国際連合教育科学文化機関）の世界遺産（文化遺産）に登録された仏教寺院の1つで、西側にあるボロブドゥール寺院と東にあるムドゥット寺院の2つの仏教寺院遺跡の間に位置している。8～9世紀のシャイレンドラ朝の時代に建設され、ボロブドゥール寺院、パウオン寺院、ムドゥット寺院の3つの寺院は互いに関係性がある。

2. 建築

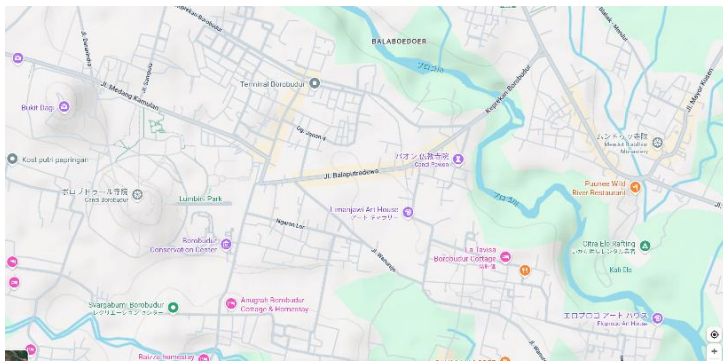
高さは11.57mで、寺院は西向きに建てられている。寺院の上の部分は1つの大きなストウパが8つの小さなストウパに囲まれたようになっている。部屋は1つで、中には部屋の入り口がある西側を除いて2箇所の換気の穴がある。北と南の壁に装飾された窪みがあるが像は見つかっていない。外の壁にはハーリティー（母子鬼神）、ボーディサッタ（菩薩）、ターラー（多羅菩薩）、カルパタルの樹などが彫られている（写真左がカルパタルの樹）。カルパタルの樹の下には3つの宝の壺、両側には天人のガンダルヴァと天女のアプサラスが、その下にはキナラ・キナリが彫られている。優美な浮き彫りの装飾から「ジャワの宝石」と称される。中の祠堂にはかつてボーディサッタという菩薩1体が安置されていたと考えられる。



3. 位置関係と使用の目的

ボロブドゥール寺院、パウオン寺院、ムンドウット寺院の3つの寺院はほぼ一直線上にあり宗教的な象徴とされかつてはこの線に沿って参道があったとされるが、その痕跡は見つかっていない（下の図は Google Map より抜粋）。この寺院はボロブドゥール寺院に上行する前に心を清めるために使用されたと考えられている。しかし、寺院には財宝を授ける神などが描かれていて、巡礼者は世俗的な願いが叶うようにと礼拝したのではないかと考えられている。そのため、パウオン寺院の確実な宗教的意義は定かではないとされる。

現在では年に一度5月か6月の満月の日に「ウェーサーカ祭」という、仏教徒がムンドウット寺院からパウオン寺院、ボロブドゥール寺院まで歩き参拝する宗教行事がある。右下の写真がボロブドゥールでの祝典の様子である。



4. 歴史

ボロブドゥール寺院、パウオン寺院、ムンドウット寺院はほぼ同時期（西暦800年ごろ）に建立されたと考えられる。しかし、様式や装飾の観点からはパウオン寺院とムンドウット寺院はボロブドゥール寺院よりも前の8世紀末に建立されたとみることができる。パウオンとはジャワ語で「台所」を意味し、「awu」（灰）が基の言葉である。「灰」を意味することから、おそらく王の埋葬場所または埋葬殿として建てられたと考えられる。埋葬された人物は不明であるが、オランダ人考古学者のドゥ・カスパリスはシャイレンドラ朝のサマラトゥンガ王の父王「インドラ」だとしている。パウオン寺院はムンドウット寺院の修復とともに1903年に修復された。しかし、本来の意匠に沿っているかは疑わしいとされる。（写真は1900年）



5. まとめ

パウオン寺院はボロブドゥール寺院遺跡群の中の1つでボロブドゥール寺院、パウオン寺院、ムンドゥット寺院が一直線に位置していて、定かではないが、ボロブドゥールに上行する際に身を清めるためにパウオン寺院に参拝してからボロブドゥールに向かったとされる。メラピ山、トゥグ、クラトンがほぼ一直線になっているのと同様に、ボロブドゥール寺院遺跡群の寺院のボロブドゥール寺院、パウオン寺院、ムンドゥット寺院もほぼ一直線になるように建てられていて、「一直線上にある」ことは宗教的な意味でとても重要なのだと考えた。しかし、8～9世紀にどのようにしてこれらの寺院を一直線に建設することができたのか不思議に思った。

6. 参考資料

[パウオン寺院 - Wikipedia](#)

[パウオン寺院とムンドゥット寺院 | ボロブドゥール寺院遺跡群 | 世界遺産オンラインガイド](#)

[ムンドゥット寺院&パウオン寺院 | Bagus Bintang Tour & Travel](#)

[【観光情報】ワイサック仏教大祭 \(インドネシア ボロブドゥール ランタンフェスティバル \) | ジャワ島旅行情報サイト](#)

[ウェーサーカ祭 - Wikipedia](#)